

ù < í Õ ï =

u 0 Œ Ž · ¿ [

目 次

巻頭言・・・・・・・・・・	仙台市中学校長会会長 菅野 雅克	1
平成19年度仙台市中学校長会活動方針・・・・・・・・・・		2
1 各部の活動概要		
(1) 総務部・・・・・・・・・・		3
(2) 研究部・・・・・・・・・・		4
(3) 教育課題部・・・・・・・・・・		5
(4) 研修部・・・・・・・・・・		6
(5) 人事部・・・・・・・・・・		7
(6) 情報部・・・・・・・・・・		8
(7) 行財政部・・・・・・・・・・		9
(8) 生徒指導部・・・・・・・・・・		10
2 研究調査等報告		
(1) 研究部・・・・・・・・・・		11
(2) 教育課題部・・・・・・・・・・		17



<巻頭言>

改革期における望ましい校長会の役割と活動を求めて

仙台市中学校長会長 菅野 雅 克

昭和22年4月、義務教育の「新制中学校」として中学校教育が発足して60年、その節目の年に当たる今年には学校教育の転換期と言えます。平成18年12月に教育基本法が改正され、今年6月の教育三法の改正をはじめ、関係法規の改正準備が進められています。新しい時代に向けての教育再生の動きは今、確実にその第一歩を動き始めています。

思えばここ10年は、特に様々な教育改革が国や各自治体から打ち出されたことは過去に類がなく、まさしく学校教育は「混迷の時代」とも言えます。

完全学校週五日制の導入に合わせて、生徒の分かる授業の追求、総合的な学習の時間・大幅な選択教科を盛り込んだ新しい学習指導要領の下での教育課程の編成・実施、さらに長年学習評価の主流だった相対評価から絶対評価への全面移行、仙台市ではこの期に二学期制の先行実施もありました。

始動して数年、新たな総合的な学習での新しいスタイルの学習、体験的な学習による生徒の学習意欲や理解面での成果等も論じ始められた矢先、PISAやIEAなどの国際調査の結果から、学力低下や「ゆとり教育」の失敗などの声が上がりに、やがてその声が大きな渦となり、学力向上は学校における教育課程編成の最重点課題として、各学校での具体的対応が求められるようになっていきます。

一方、生徒指導面では、昨年秋からの深刻ないじめ増と児童・生徒の自殺、不登校生徒増や悪質な問題行動・少年犯罪の増加など、大きな社会問題となっています。これらの一連の現象は、残念ながら、学校教育での前向きな対応を期待する多くの市民による学校への不信感として出ています。

また、この他にも今年から実施された全国学力調査や特別支援教育の実施、次年度から実施の教職員大学院制度の創設など、国の施策だけでも数多くあります。

このような教育の激動期の中で、私たち校長一人一人の確固たるリーダーシップと実行力のある学校経営者としての真価が、今まさに厳しく問われています。そのため、私たち仙台市中学校長会会員は、現状や課題を十分に認識し、様々な教育改革や施策の動向を的確に見極め、不易と流行の

判断を明確にし、学校経営を進める必要があります。

校長会としては、これらの課題に対応するために平成15年度から意識して、望ましい活動の見直しとスリム化に努めてきました。東北地区中学校長会の組織と活動のスリム化、宮城県中学校長会からの仙台市中学校長会からの分離については、この延長線で会員の総意に近いものを求め、5年の年月をかけて推進してきました。

そのため、今後の本会の在り方を見つめたとき、全日本中学校長会の組織の一角として、また、仙台市中学校長会と学校とをつなぐリンケージ・システムとして重要なのは、次の三つの役割です。

第一には、全日中や文科省・市教委で決定された理念や施策を会員に伝達し、その徹底を図るという役割です。具体的には、中教審の動向・全日中情報や本年から本格実施の市の教員評価制度・勤務の割振りなどの情報提供などが挙げられます。

第二には、内容によってはそのまま学校に伝えるのではなく、校長会員の意見集約を踏まえ、市教委などとの協議の場を持ち加味・修正して活動を推進する役割があります。具体的には、市教委の「自分づくり教育」（職場体験学習）や「確かな学力の向上」策への役員・課題検討部会・例会などでの市教委との意見交換や情報交換会を踏まえたより望ましい教育施策の創造に向けた取組です。

第三には、国や市の教育施策への改善策の提言などの能動的に発信する役割です。具体的には、今年8月の市教委懇談会への「さわやか相談員」の中学校への新規配置の改善策の提案、9月の県教委との懇談会での30人程度学級や少人数指導体制の推進、11月の県選出国會議員への「教職員定数改善」などの要望書の提言などの取組などです。

私たち校長会は、今後とも組織や活動内容の見直し・改革の推進に心がけ、お互い本音をぶつけ合いながら、新しい時代の中学校長会の充実のための研鑽と実践を深めていきたいものです。

最後に、会員の皆様のご協力・ご支援に感謝し、皆様の一層のご活躍をご期待申し上げます。

平成19年度仙台市中学校長会活動方針

今日、わが国では、国際化、情報化、少子・高齢化等の急激な社会の変化に伴い、様々な改革が進められている。これらの改革は、学校教育にも大きなうねりとなって押し寄せ、重大な局面が続いている。

この時に当たり、わたしたちは中学校教育に課せられた責務と市民の期待を深く認識し教育改革の理念を踏まえ、【生きる力】の育成と特色ある学校づくりを推進するために、校長としての職責を一層自覚し、次の重点項目に基づき、本市中学校教育の充実発展に当たる。

- 1 仙台市中学校校長会の機能を一層充実し、活動の活性化に努める。
 - (1) 経営能力を高めるための研修・協議の充実
 - (2) 宮城県、小学校、高等学校の校長会との連携強化
 - (3) 各部における諸活動の充実と関係各界との連携強化
 - (4) 活動内容の市民への積極的な公開と情報発信の推進

- 2 創意ある教育課程を編成し、学力の向上と個性を生かす教育の推進に努める。
 - (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育課程の編成と実施
 - (2) 基礎学力の確実な定着を図る指導と評価の改善
 - (3) 「豊かな心」と「健やかな体」の育成の工夫・改善
 - (4) 「総合的な学習の時間」の一層の充実に向けた取組

- 3 当面する教育課題の解決に努める。
 - (1) 豊かな心の充実を中核とする生徒指導の推進
 - (2) いじめの早期発見といじめを許さない学校体制の確立
 - (3) キャリア教育の充実
 - (4) 安全・安心な学校づくりを目指しての家庭及び地域社会との連携強化
 - (5) 学校改善につながる学校評価システムの工夫
 - (6) 教職員の適正な評価を通しての資質向上と教育実践に結びついて現職教育の充実
 - (7) 特別支援教育の充実
 - (8) 高等学校入学者選抜の改善に対する提言

- 4 多様な教育活動を推進するため、教育条件の整備・充実に努める。
 - (1) 教職員定数の改善及び多様な教育課題に即応した専門職員の配置
 - (2) 免許外教科担任の解消と非常勤講師制度の拡充
 - (3) 人事異動における地区制等の早期の見直し
 - (4) 施設・設備の充実と教材備品の整備

- 5 教職員の職責に見合う待遇改善の実現に努める。
 - (1) 「義務教育費国庫負担制度」及び「人確法」の堅持
 - (2) 退職後の福祉制度の維持
 - (3) 教職員特殊業務手当の増額

各部活動の概要

総務部

部長 青沼 一民

1 活動目標

仙台市中学校長会の活動の方針を踏まえ、様々な要望や提言の取りまとめを行い、活動全体計画及び各部間の連絡調整を図りながら、会の能率的かつ円滑な運営の推進を努める。

2 活動内容

(1) 各部会の諸機関等への要望や提言をまとめ、その窓口となる。

仙台市教育委員会等への要望書の作成及び渉外に関する事項
その他の事項

(2) 年度の活動目標、行事予定、事業計画案を立てる。

(3) 例会や各種会議等の準備や計画を立てる。

(4) 各部会間等の綿密な連絡調整を図る。

(5) 福利厚生や親睦会に関する計画や準備を行い、実施する。

(6) 教育実習生の受入れ調査等を行う。

(7) 市中学校長会要覧を編集し発行する。

(8) 中高連絡会に関する事項。

(9) その他。

3 活動の概要

(1) 仙台市中学校長会歓送迎会 (ホテル白萩)
4月 4日 (水)

(2) 第1回総務部会 (市教育センター)
4月11日 (水)
部長の確認、副部長の選出、活動目標、活動計画、係分担等について検討
(総合部会)

(3) 第2回総務部会 (ホテル白萩)
4月23日 (月)
市総会会場との打ち合わせ及び会場準備

(4) 第3回総務部会 (市教育センター)
6月 5日 (火)

東北地区校長会の確認

(5) 平成19年度教育実習生(後期)受入れ調査
6月19日 (火)

(6) 市教委各課への要望書作成
6月25日 (月)

各校へ要望書の提出について依頼

(7) 第4回総務部会 (ホテル白萩)
7月 5日 (木)

中高(公・私)連絡会の諸準備

(8) 第5回総務部会 (富沢中)
7月26日 (木)

市教委各課への要望の集計及び要望書の作成

(9) 市教委各課への要望書提出と懇談(市教委)
8月29日 (水)

要望書提出と打ち合わせ

(10) 中高(公立)連絡会 (ホテル白萩)
9月11日 (火)

(11) 中高(私立)連絡会(ガーデンパレス)
10月31日 (水)

(12) 小中合同校長会 (ホテル白萩)
11月30日 (金)

(13) 平成20年度教育実習生(前期)受入れ調査
1月10日 (木)

(14) 第6回総務部会・反省と計画(ホテル白萩)
2月 8日 (金)

総務部員

部長	青沼 一民 (富沢中)
副部長	千田 一敏 (北仙台中)
副部長	伊藤 芳郎 (中田中)
事務局長	佐藤 政男 (上杉山中)
部員	若松 和夫 (生出中)
部員	荒井 富雄 (八木山中)
部員	櫻井 健五 (中野中)
部員	吉田 明 (寺岡中)
部員	佐藤 淳 (柳生中)

研究部

部長 鈴木 清和

1 活動目標

中学校教育の主に教育課程に係る諸課題等についての調査研究を行い、その解決等の方策を探る。

2 活動内容

(1) 教育課程にかかわる現状分析と諸課題について調査・検討する。

「総合的な学習の時間」の一層の充実について調査研究を推進する。

(2) 私立高等学校との連絡会で話題提供を行う。

(3) 宮城県・仙台市中学校長会研究協議会で研究発表を行う。

3 活動概要

(1) 4月11日(水) 第1回部会

- ・活動目標、活動内容の確認
- ・副部長の選出

(2) 6月18日(月) 第2回部会

- ・研究主題の確認
- ・副題・研究計画・アンケート内容の検討

(3) 7月3日(火) 第3回部会

- ・アンケート項目の検討と作成
- ・今後の日程についての確認

(4) 7月18日(水) 第4回部会

- ・アンケート内容の最終確認
- ・アンケートの発送準備

(5) 7月23日(月)

- ・アンケート発送

(6) 8月1日(水)

- ・アンケート回収・集計

(7) 8月14日(火) 第5回部会

- ・アンケート結果のまとめと考察

(8) 8月31日(金)

- ・県大会発表原稿を県事務局に送付

(9) 10月1日(月) 第6回部会

- ・担当で県大会発表内容の検討

(10) 10月17日(水) 第7回部会

- ・県大会発表内容の最終検討と確認

(11) 10月31日(水)

- ・私立高等学校との連絡会で「総合的な学習の時間」について話題提供

発表：校長 渡邊次雄(郡山中)

(12) 11月1日(木) 第8回部会

- ・担当で県大会発表内容の最終確認

(13) 11月2日(金)

- ・第28回宮城県・仙台市中学校長研究協議会大崎大会で研究発表

発表題：仙台市立中学校の「総合的な学習の時間」の実施状況

発表：校長 國井恵子(広瀬中)

(14) 2月8日(金) 第9回部会

- ・19年度の反省と20年度の計画

平成19年度 研究部員

部長	鈴木 清和	(五城中)
副部長	國井 恵子	(広瀬中)
部員	松田 満	(三条中)
部員	渡邊 次雄	(郡山中)
部員	沼田 茂雄	(幸町中)
部員	加藤 純一	(西山中)
部員	志賀野 博	(八乙女中)
部員	高野 仁士	(広陵中)

教育課題部

部長 伊藤喜壽雄

- ・学校経営に関わる諸課題
- ・社会全体としての運営課題

テーマの決定と活動計画づくり

1 活動目標

内外の社会変化に対応する教育改革が進む中、当面する教育課題を直視して解決するべく調査研究を図り、学校運営に資するよう提言する。

2 活動内容

(1) H19年度仙台市中学校長会活動方針3

「当面する教育課題」～をうけて、仙台市における喫緊の今日的教育課題の検討と分析を行う。

(2) 課題の絞り込みを行い、部員相互による協議を重ねて提言をまとめる。

(3) 課題について必要な実態調査を行い検証資料とする。

3 調査研究テーマ

仙台市学校教育重要施策の柱として位置づけ推進されてきた、ふたつのテーマについての現状把握と展望に関する課題を追求していく。

(1) 「仙台市のキャリア教育」の方向性

(2) 「仙台市標準学力検査」の課題

4 活動計画と経過

従来、当部会では実態調査アンケートを実施してまとめを提言してきたが、今回はレポーター資料に基づく徹底した討論を行い、その概要を部会提言という形式で全会員に発表という形にした。その間、教育指導課との話し合いをもち施策方針のねらい等、課題の明確さを追求するなど行った。

4.1.2 副部長選出、役割分担

活動内容と計画確認

4.2.0 課題の洗い出し

H16 「授業時数の確保」

H17 「公立高校推薦制度」

H18 「小中の連携・接続」

・生徒に関わる諸課題

・教員資質に関わる諸課題

6.2.2 「仙台市のキャリア教育」討議

話題提供 八巻・南小泉中学校長
具体的課題について研究討議

7.1.1 教育指導課との打ち合わせ

課長・主幹・担当指導主事同席

8.3.0 部会協議内容のまとめ作業

9.2.5 「仙台市キャリア教育について」 部会提案まとめの全体討議

10.4 校長会定例会にて提案報告

10.3.1 「仙台市標準学力検査」討議

話題提供 堀江・向陽台中校長
具体的課題について研究討議

11.3.0 論点の再協議とまとめ

12.2.1 提言内容の確認

1.1.1 校長会定例会にて提案報告

2.8 まとめと反省、次年度計画

5 提案事項の概要

(1) 仙台市のキャリア教育について

・自分づくり教育の位置づけ

・職場開拓の不安解消

・予算的措置の方向性

・研究実践校からの情報提供

(2) 仙台市標準学力検査について

・分析資料と指導改善

・問題作成の方向性

・進路指導資料としての位置づけ

19年度 教育課題部員

部長 伊藤喜壽雄(五橋中)

副部長 相場啓司(館中)

部員 八巻賢一(南小泉中)

部員 伊藤順子(蒲町中)

部員 島和夫(桜丘中)

部員 庄司光江(根白石中)

部員 堀江謙一(向陽台中)

部員 鹿野良子(加茂中)

研修部
部長 佐山 厚

1 活動目標

- (1) 今日的な課題に即応した学校教育の改善を図るための研修の企画運営を行う。
- (2) 学校運営・経営に参考となる研修の企画を行う。

2 活動内容

- (1) 各種研修の企画と運営を行い、会員相互の研鑽を深める。
- (2) 例会時等の充実した研修の企画と運営を行う。

3 活動の概要

- (1) 4月11日(水)第1回研修部会
・副部長選出
・活動目標、活動内容、活動計画の検討
- (2) 4月24日(火)第2回研修部会
・活動内容確認、情報交換
- (3) 5月25日(金)第3回研修部会
・活動内容、役割分担の検討、情報交換
- (4) 6月5日(火)第1回研修会
内容「新天文台と天文台学習」
講師 仙台市天文台指導主事 花田 義輝
- (5) 7月5日(木)第2回研修会
内容「今後の特別支援教育について」
講師 特別支援教育室主任指導主事 赤間 宏
- (6) 8月28日(火)第3回研修会
内容「直木賞作家に聞く『自由業と職業』」
講師 熊谷 達也
- (7) 9月27日(木)第4回研修部会
・活動内容、役割分担の確認、情報交換
- (8) 10月4日(木)第4回研修会
内容「大阿闍梨に聞く人生の悟り」
講師 慈眼寺住職大阿闍梨 塩沼 亮潤

- (9) 11月16日(金)第1回新会員研修会
内容「人事異動の理念と実務」
講師 宮城野中学校長 高橋 泰
- (10) 11月30日(金)第5回研修会
内容「キャリア教育の受け入れについて」
講師 楽学プロジェクト委員長 山口 哲男
- (11) 12月5日(水)第5回研修部会
・活動内容、役割分担の確認、情報交換
- (12) 12月末日 第6回研修部会
・今年度の反省、次年度計画、情報交換
- (13) 1月11日(金)第6回研修会
内容「仙台市の次世代育成について」
講師 副市長 奥山 恵美子
- (14) 1月末日 第7回研修部会
・次年度計画立案、情報交換
- (15) 2月8日(金)第7回研修会
内容「学力向上策について」
講師 教育指導課長 庄子 修
- (16) 3月4日(火)第8回研修会
内容 各部の発表
- (17) 3月4日(火)第8回研修部会
・次年度計画立案、情報交換

4 課題

- (1) 講師選定に苦慮した。
- (2) 室内の講演、講話が主だった。
- (3) 新会員研修会は遅すぎた。

研修部員	
部長	佐山 厚(二中)
副部長	末 武(東華中)
部員	齋藤 秀逸(一中)
部員	高野 睦夫(沖野中)
部員	大内 吉基(長命ヶ丘中)
部員	大山 芳宏(住吉台中)
部員	高橋 武光(附属中)

人事 部
部長 宗形 文雄

1 活動目標

人事に関する課題の解明と適正化に努める。

2 活動内容

(1) 人事に関する調査を行い、現状と課題等を把握する。

職員構成

現在校勤務年数別人数

新採用教員配当状況

人事に関する要望事項他

(2) 人事調整会の運営を行う。

調整会資料作成

調整会運営

3 活動概要

(1) 第1回部会 4月11日(水)

- ・副部長選出、役割分担
- ・活動目標と内容の検討
- ・年間活動計画の立案

(2) 第2回部会 5月25日(金)

- ・「人事に関する調査」の項目・内容の検討

(3) 第3回部会 6月22日(金)

- ・「人事に関する調査」集計

(4) 第4回部会 7月3日(火)

- ・調査結果のまとめと印刷・製本

(5) 市校長会例会 7月5日(木)

- ・「人事に関する調査」結果の報告

(6) 第5回部会 11月12日(月)

- ・「人事異動基本調査」「教員転出予者数調」の検討、作成

(7) 市校長会例会 11月30日(金)

- ・「平成19年度人事異動基本調査」「教員転出予定者調」の依頼

(8) 第6回部会 12月20日(木)

- ・「平成19年度人事異動基本調査」「教員転出予定者調」の点検と集計
- ・調整会の資料作成
- ・調整会の進め方、役割分担
- ・市教委との打ち合わせ

(9) 臨時校長会(調整会)

1月9日(水) 於: ホテル白萩

(10) 第7回部会 3月4日(火)

- ・平成19年度の反省
- ・平成20年度の活動計画

人事 部 員	
部 長	宗 形 文 雄 (鶴 谷 中)
副部長	高 橋 泰 (宮 城 野 中)
部 員	山 田 惠 嗣 (人 来 田 中)
部 員	櫻 井 健 二 (大 沢 中)
部 員	末 永 精 悦 (秋 保 中)
部 員	安 住 裕 (南 中 山 中)
部 員	橋 本 和 康 (松 陵 中)

情報部

部長 入間川 巧

1 活動目標

- (1) 必要に応じて適切な情報を会員に提供し、また、資料の収集と保存に努める。
- (2) 広報業務の整理と仙台市中学校長会HPの管理・更新に努める。

2 活動内容

- (1) 仙台市中学校長会の広報活動を推進し、記録や報告を通して活動の理解と活性化に努める。
- (2) 仙台市中学校長会の広報活動に関する記録や報告のIT化を推進する。
- (3) 仙台市中学校長会HPの管理・更新を図る。

3 活動の概要

第1回情報部会 4月11日(水)

平成19年度「情報部組織、活動目標・方針、活動内容」の確認。副部長の選出。

第2回情報部会 4月23日(月)

情報部会開催日の確認。活動内容(HP作成、及び更新コンテンツ等作成、紀要作成)について確認

第3回情報部会 5月28日(月)

仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成他

第4回情報部会 8月28日(火)

仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成他

第5回情報部会 11月6日(火)

仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成他

第6回情報部会 12月7日(金)

仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成

仙台市中学校長会「紀要」作成についての諸計画検討

第7回情報部会 1月11日(金)

仙台市中学校「紀要」第1次校正

第8回情報部会 2月7日(木)

仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成

仙台市中学校長会「紀要」第2次校正

次年度情報部会計画等検討

第9回情報部会 3月4日(火)

仙台市中学校長会「紀要」配付準備

今年度の反省と次年度計画の再確認

仙台市中学校長会「紀要」配付

3月4日(火)

4 その他

仙台市中学校長会「紀要」については、今年度初めてCD化を図った。HPのブログへの掲載も検討したが、「紀要」に掲載される内容等を考え、結論としてCD化することにした。

次年度の「紀要」については、更に検討を加えていただきたい。

情報部員

部長	入間川 巧	(西多賀中)
副部長	小野 友良	(愛宕中)
部員	永野 幸一	(八軒中)
部員	吉田 誠	(折立中)
部員	齋藤 健	(将監東中)
部員	片倉 景範	(茂庭台中)
部員	内 誠	(高森中)

行財政部

部長 文屋 俊英

1 活動目標

- (1) 学校運営に関する課題の解明と適正化に努める。
- (2) 財務内容について検討し、経理を適正に執行する。

2 活動概要

- (1) 学校運営に関する調査を行い、提言・要望をまとめる。
- (2) 年間予算案を提示する。
- (3) 収入・支出状況の把握と中間決算報告を行う。
- (4) 決算報告を行う。
- (5) 財務内容について検討し、次年度の活動計画と予算案の作成を行う。

3 活動概要

- (1) 臨時校長会・総合部会
 - 4月11日(水) 教育センター
 - ・活動目標作成
 - ・18年度決算と監査及び19年度予算案の作成
 - ・学校運営の課題についての討議
 - ・会費及び負担金等の集金計画
- (2) 仙台市中学校長会総会
 - 4月23日(月) ホテル白萩
 - ・18年度決算と監査の報告
 - ・19年度予算案の提案と承認
- (3) 第1回行財政部会
 - 5月2日(水) 将監中学校
 - ・会費及び負担金等の集金の役割分担
 - ・学校運営の課題の設定
「キャリア教育の財政面についての課題」
 - ・課題についての研究方法の討議及び研究役割分担について
- (4) 第2回行財政部会
 - 5月30日(水) 将監中学校
 - ・「キャリア教育の財政面についての課題」に関するアンケート項目の討議
 - ・アンケート調査に関する手続の決定

- (5) 平成19年度 行財政部「キャリア教育」に関するアンケートを各校に依頼
6月12日(火)
- (6) 平成19年度 行財政部「キャリア教育」に関するアンケートを各校に依頼
7月5日(木)
- (7) 第3回行財政部会
8月31日(金) 将監中学校
 - ・「キャリア教育」に関するアンケートの集計結果報告
 - ・「キャリア教育」に関するアンケートの集計結果に関する考察(第1次)
- (8) 第4回行財政部会
9月26日(水) 将監中学校
 - ・「キャリア教育」に関するアンケートの集計結果に関する考察(第2次)
 - ・発表方法について
- (9) 中間監査
9月28日(金) ホテル白萩
- (10) 会計中間報告及び同監査報告
10月4日(木) 教育センター
- (11) 「キャリア教育」に関するアンケート集計結果の送付
10月15日(月)
- (12) 19年度決算見通しと20年度予算及び計画の検討開始
1月11日(金)
- (13) 20年度予算原案提示
2月8日(金)
- (14) 第5回行財政部会
3月4日(火)
 - ・19年度反省及び20年度計画
- (15) 19年度会計監査
3月13日(木)

行 財 政 部 員

部 長	文 屋 俊 英	(将 監 中)
副部長	大 友 光 好	(東 仙 台 中)
部 員	鈴 木 貞 一	(高 砂 中)
部 員	中 條 正 弘	(中 山 中)
部 員	熊 谷 繁	(鶴 が 丘 中)
部 員	山 田 和 行	(南 光 台 東 中)
部 員	澁 谷 代 志 子	(田 子 中)

生徒指導部

部長 菊池 義廣

1 活動目標

- (1) 積極的な生徒指導の推進と心の教育の充実～
生徒指導上の今日的課題の解明とその対策～

2 活動内容

- (1) 大都市特有の生徒指導に関する諸問題の調査研究
(2) 関係諸機関との行動連携の強化
(3) 学校間の連携と情報交換の緊密化
(4) 特別支援教育の現状と課題について調査研究の推進
(5) 家庭・地域との連携による生徒の安全対策の推進
(6) 中学校体育スポーツに関する事項

3 活動の概要

- (1) 第1回部会 4月11日(水)

正副部長の互選

部長 菊池 義廣(岩切中)

副部長 藤田 潤吉(吉成中)

活動目標, 内容, 計画の検討

調査研究事業計画の進め方の検討

- (2) 第2回部会 6月5日(火)

活動目標, 内容, 計画の確認

調査研究事業計画の確認

「いじめ問題解決に向けた取組状況調査」

役割分担の確認 (事前に資料配布)

- (3) 第3回部会 7月18日(木)

「仙台市青少年対策4機関・小中学校長会生徒指導合同会議」

(仙台市子ども相談支援センター)

メール犯罪の現状とその防止

宮城県警察本部少年課

不登校生徒への支援

北仙台中養護教諭 伊藤 康子 氏

- (4) 第4回部会 8月1日(火)

仙台市小・中学校長会生徒指導合同部会

(研修会) (ホテル 白萩)

秋葉 功 (福岡小)

提言「望ましい幼保・小・中学校間の連携の在り方」

米澤 通徳 (袋原中)

提言「関係機関との連携の在り方」

- (5) 第5回部会 1月11日(金)

調査研究項目の検討

- (6) 第6回部会 3月4日(火)

次年度計画の検討

調査報告の確認

- (7) 生徒指導管外研修

11月1日(木)～2日(金)

さいたま教育研究所視察

国立特別支援教育総合研究所視察

- (8) 仙台市成人式運営参加

1月8日(月) 仙台市体育館

(校長会としての運営参加は今年度までとする。)

- (9) 仙台市生徒指導主事連絡協議会運営

6月21日, 8月31日, 1月19日

2月20日

・関係諸機関との情報交換

・中総体, 長期休業, 入試対策

- (10) 仙台市校外指導連盟運営

・校外での生活指導と事故防止対策

(水難事故, 交通事故, 繁華街での事故, その他)

・中総体期間中の事故防止対策

(対策本部設置・市内5ヶ所)

・危険箇所の確認と巡回指導 ほか

生徒指導部員

部長 菊池 義廣 (岩切中)

副部長 藤田 潤吉 (吉成中)

生徒指導主事連絡協議会全市部長

部員 熊谷 祐彦 (六郷中)

仙台市中教研生徒指導部会長

部員 布施 俊雄 (七郷中)

地域ぐるみ生活指導連絡協議会監事

部員 鈴木 きよ子 (山田中)

仙台市校外指導連盟監事

部員 米澤 通徳 (袋原中)

仙台市校外指導連盟副会長

部員 尾形 孝徳 (南光台中)

仙台市校外指導連盟会長

部員 小野寺 康一 (南吉成中)

いじめ問題対策委員

研究調查報告

仙台市中学校の「総合的な学習の時間」の実施状況

平成17年度の国立教育政策研究所の実施調査の比較から

校長会研究部

はじめに

平成17年10月の中央教育審議会答申において、「総合的な学習の時間」で大きな成果を上げている学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも十分達成されていない状況が見られる学校もあると指摘された。仙台市においては、『杜の都の学校教育 - 推進の指針と指導の重点 -』の中で「総合的な学習の時間」の一層の充実が求められている。特に、ねらいの明確化と内容の検証、そして各教科との関連を明確にした全体計画の作成が重要であると指摘されている。

学習指導要領がまもなく改訂される時期に当たり、現行学習指導要領の目玉として導入されてきた「総合的な学習の時間」が本来のねらいどおり、21世紀を生き抜くために必要な生きる力の育成に成果を上げているのだろうかという思いがある。

さらに、学力低下が叫ばれ、教科の指導力向上を掲げられ、現場の教師集団は時間との戦いともなっている。十分な教材研究の時間を確保することもままならない現状のなかで、「総合的な学習の時間」はどのようになっているのかを明らかにする必要があるのではと考えた。

研究のねらい

今年度の仙台市の公開講座「総合的な学習の時間の現状と課題、改善の方向」の場において、全国の小学校及び中学校における「総合的な学習の時間」の実施状況について概要が示された。そのなかで、『「総合的な学習の時間」を実施しての課題は』の設問では、70%前後の学校が全体計画や指導計画の工夫改善、単元開発や教材開発、指導方法、評価の在り方等で「課題があると思う」「どちらかといえば課題があると思う」と答えていた。また、学習環境や施設等の諸条件や活動等に必要な予算について

は、約75%の学校が課題があると答えていた。

これらの課題を解決しなければ「総合的な学習の時間」の一層の充実は望めない。そこで仙台市内の校長は各校の現状をどのように捉え、取り組んでいるのかを明らかにしながら、全国の調査と比較し、検討を加えることにした。

研究の方法

- 1 仙台市立中学校63校の校長にアンケート調査を実施した。（平成19年7月実施）
- 2 アンケート項目は、「総合的な学習の時間」実施状況調査研究会（国立教育政策研究所）の作成した調査内容・調査結果を分析し、仙台市の現状がより把握できるように項目をリストアップした。
- 3 学校規模によって「総合的な学習の時間」の取り組みに違いがあるか調査できるようにした。
- 4 学校規模は学校教育法施行規則17条を基にして、小規模校11学級以下、中規模校18学級以下、大規模校19学級以上と押さえた。

調査結果から

質問1 各学年の学級数について

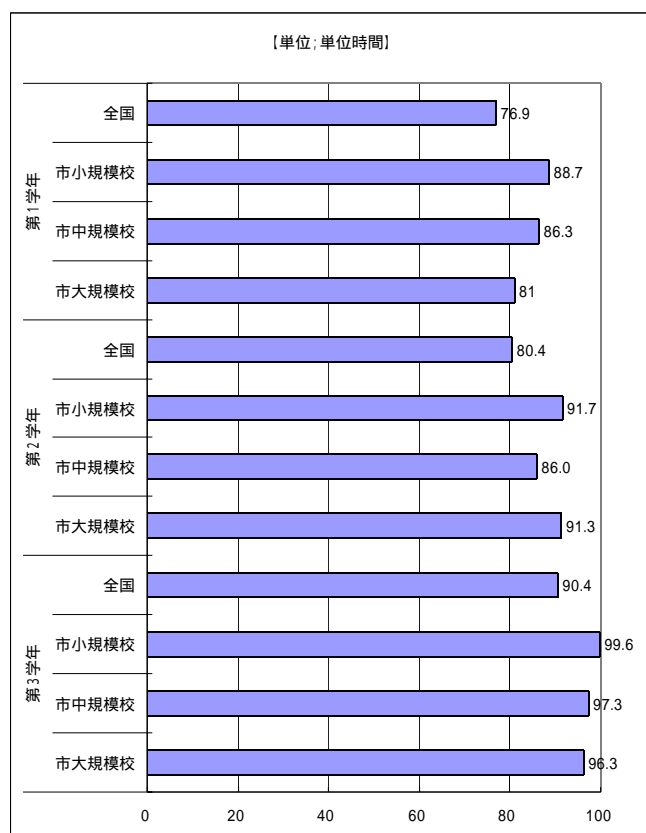
1年から3年にわたって学級数は3・4・5クラスが多く、中規模校レベルが多かった。仙台市の平均学級数は12.0学級で、適正規模学校基準にみあう学級数とも一致している。

質問2 全教員数

仙台市全体の平均は26.6名で、小規模校は20.9名、中規模校は30.3名、大規模校は43.0名であった。

質問3 総合的な学習の時間に充てる年間授業時数 (実施時数)

仙台市では平均授業時数が、1学年 86.3 時間、2学年 89.1 時間、3学年 98.4 時間で、どの学年も国立教育政策研究所の結果より8～10時間多くなった。ただ1学年では70時間～131時間、2学年では70時間～126時間、3年生では70時間～137時間とかなり授業時数に差があった。全学年共通していえるのは、小規模校では授業時数の差が大きく、大規模校では授業時数の差が少ないことである。



質問4 - 1 総合的な学習の時間の授業時数の 設定方法

設定方法は「全学年とも年間通じて毎週設定と学年や単元によってある時期に集中して設定の複合型」が66.7%と圧倒的に多かった。毎週設定は31.7%で、ある時期に集中して設定は1.6%であった。

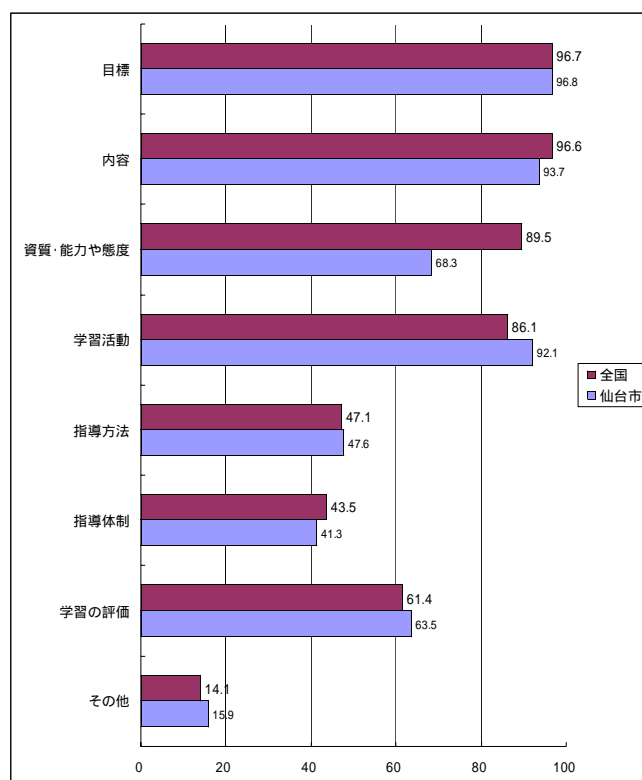
質問4 - 2 総合的な学習の時間の授業の実施方法

「総合的な学習の時間」の授業時数の設定方法だけでなく授業の実施方法についても調査してみた。

「総合的な学習の時間」の授業の実施方法は「全学年とも年間を通じて毎週設定と学年や単元によってある時期に集中して設定の複合型」が、77.6%と計画よりも多くなっていた。設定方法と実施方法の結果を調べてみると中規模校で変化が大きかった。毎週設定のみから複合型へ変化していた。

質問5 総合的な学習の時間の全体計画に設定している項目

全体計画の中の設定項目は目標や内容、学習活動が90%以上で国立教育政策研究所が調査した全国の平均とあまり変わりはないが、資質・能力や態度では全国の平均が89.5%になっているのに対して仙台市では68.3%と低かった。その他では「教科・道徳、特活その他の教育との関連」や「身につけさせたい力」「地域の実態との関連」「本年度の重点目標との関連」「外部指導者との指導内容」などが述べられた。



質問6 総合的な学習の時間の単元の設定方法

全体の88.9%が学年で共通して単元設定をしていた。学級ごとと学年で共通の両者を組み合わせているのは11.1%であり、学級ごとに単元設定をしてい

る学校はなかった。どの学年も学校規模に関係が無く同じ結果になっていた。

質問7 総合的な学習の時間を担当する分掌組織

「総合的な学習の時間」のみを担当する分掌を置いた学校が 71.4 %となっており、全国平均と比較すると極めて高い数字になっていた。既存の分掌組織が担当している学校が 27.0 %となっており全国平均よりも低くなった。

質問8 通信簿の「総合的な学習の時間」の記録欄の設定

通信簿の記録欄の設定は、学期ごとの設定が 61.9 %で、学年末のみの設定が 11.1 %、学期ごと及び学年末の設定が 23.8 %となっており、学期ごとの設定が全国平均をかなり上回っていた。これは仙台市内で実施している2学期制が反映していると考えられる。

質問9 通信簿の「総合的な学習の時間」の記録欄の設定内容

通信簿の記録欄は、評価を文章で記載する欄で設定されているのが 84.1 %と全国同様に多かった。ついで学習活動を記載する欄 58.7 %、評価の観点を記載する欄が 34.9 %であった。

質問10 総合的な学習の時間の実施によって身に付いたと思われる力や態度

1) ~ 4) までの質問項目は学習指導要領に示されている「総合的な学習の時間」開設の趣旨ともいえる内容である。その設問に対して「身に付いた」「ある程度身に付いた」のプラスの評価をした学校が仙台市では 80 %以上あり全国平均よりも上回った。

ただ「総合的な学習の時間」の実施によって「あまり身に付いていない」「殆ど身に付いていない」と否定的な回答した学校もある。とくに「殆ど身に付いていない」と回答した学校が全国平均より高くなった。

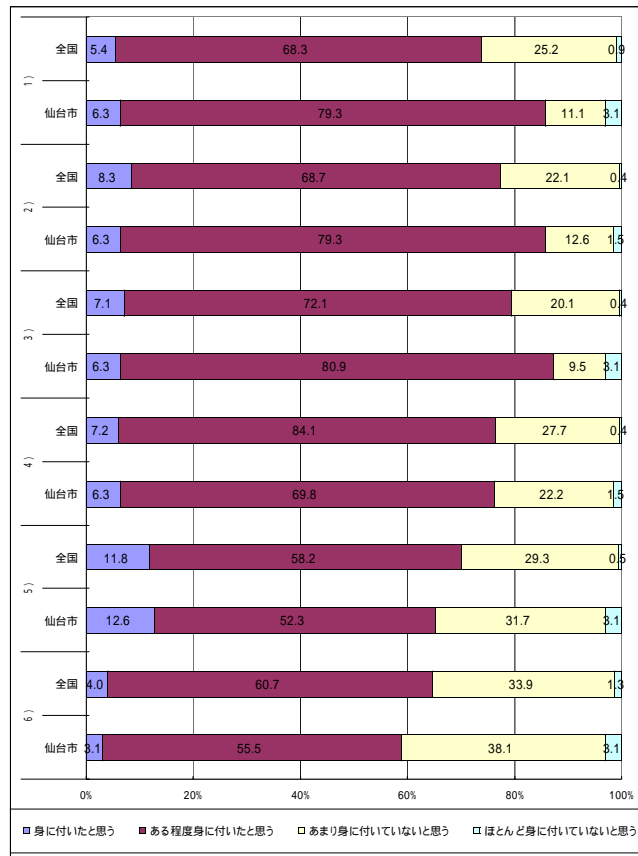
5) について

プラスの評価が 64.9 %と全国平均より低かった。これは、「総合的な学習の時間」の展開として「環境」「福祉」「職業」等の題材の展開が殆どで「自己

の生き方」に対する題材設定や内容展開などで深く考えさせることができなかったと考えられる。

6) について

プラス評価が 58.6 %と全国平均より低くなった。ただ、各教科の縦断的、横断的な関連性を意図的・計画的に展開しようとした様子が見える。

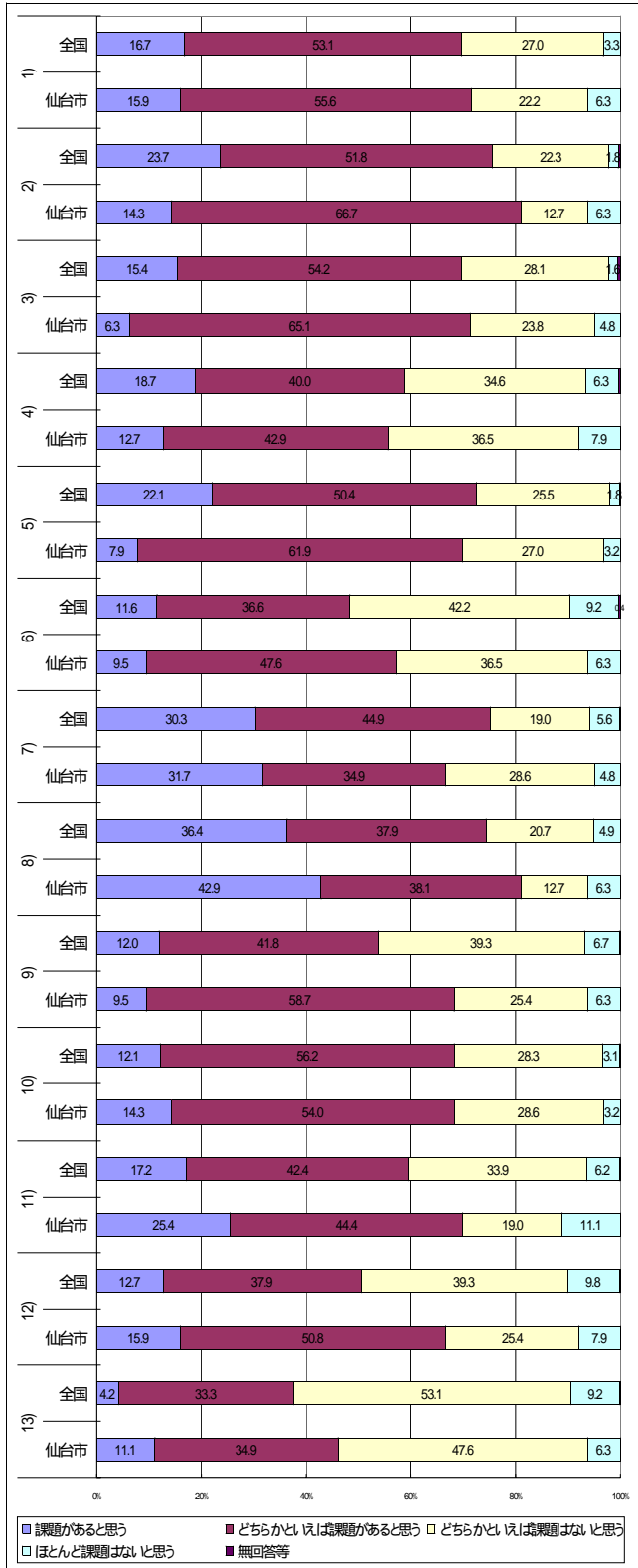


質問11 総合的な学習の時間を実施しての課題

「課題あり」「どちらかといえば課題あり」の両者を合わせてみると、仙台市の70%以上の学校で課題があると答えた項目は、全体計画や指導計画の工夫改善、単元開発や教材開発、指導方法、評価の在り方、学習環境や施設等の諸条件、活動等に必要な予算、他の学校種との連携であった。中でも単元開発や教材開発と、活動等に必要な予算の項目は80%以上の高い数値を示した。この高い数値は、総合的な学習の時間という枠を示され、後は各学校一任からくる苦悩や、しっかりとした予算の保証がないままに教育実践が行われていることを示している。

また全国平均と比較してみると、13項目中9項目で仙台市が上回り、現在展開している「総合的な学習の時間」に多くの問題を抱えながら実践してい

ることが示された。特に全国平均から 10 % 以上も高い数値を示した課題は、総合的な学習の時間にかかわる校内の組織や運営、他の学校種との連携、外部人材の活用等地域との連携であった。これらから校内体制としての組織や運営、研修体制や外部との連携の在り方など学校経営上の課題が見えてくる。

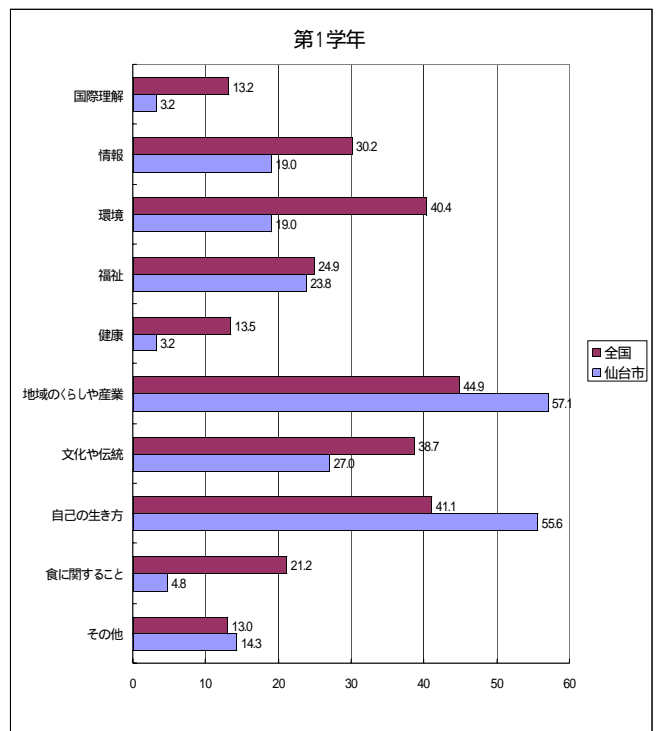


質問 1 2 総合的な学習の時間の単元実施の際の指導体制

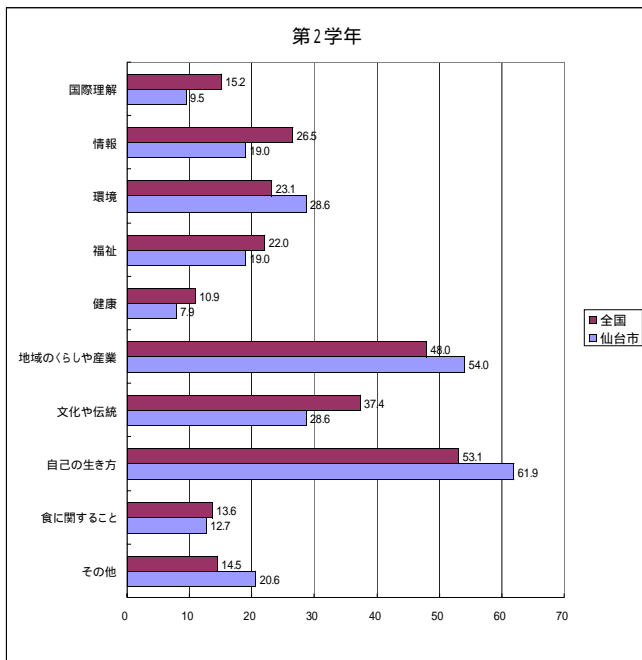
単元の指導体制として学級担任と学級担任以外の教師でが一番多く、1年生で 73.0 %、2・3年生で 68.3 %であり全国平均を上回っていた。次に多かったのが学級担任と学級担任以外の教師そして外部講師により指導しているというのが1年生で 22.2 %、2・3年生で 28.6 %であり1年生が全国平均よりも低くなっている。学校全体として学年などの教師が協力して行なっていることが伺える。

質問 1 3 総合的な学習の時間の単元の学習内容

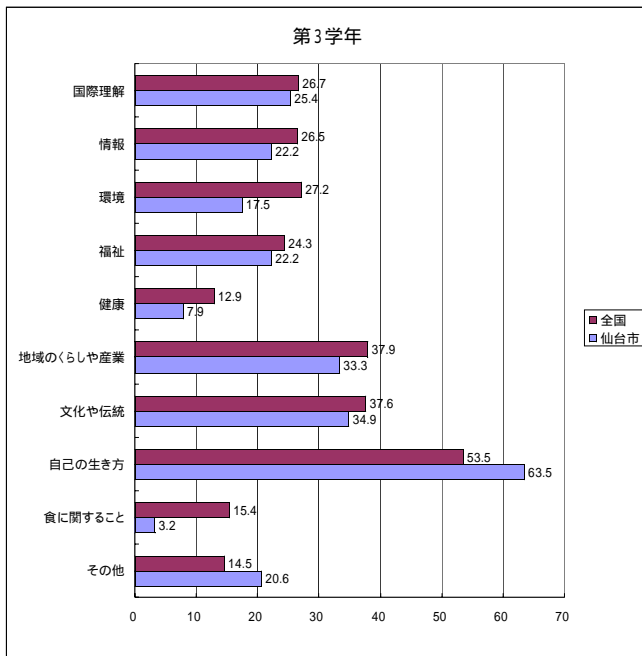
単元の学習内容を学年別に見ていくと、1年生では「地域の暮らしや産業」が 57.1 %、「自己の生き方」が 55.6 %であった。しかし全国で同じように高い数字をあげている「環境」などは 19.0 %と落ち込んでいた。さらに国際理解や健康はは全国が 13.2 %なのに対して仙台市は共に 3.2 %であった。



2年生では「地域の暮らしや産業」が 54.0 % 「自己の生き方」が 61.9 % となり全国平均よりも高くなった。さらに「環境」が 28.6 % となって全国平均よりも高くなった。ただ国際理解や健康の項目が全国平均よりも低くなった。



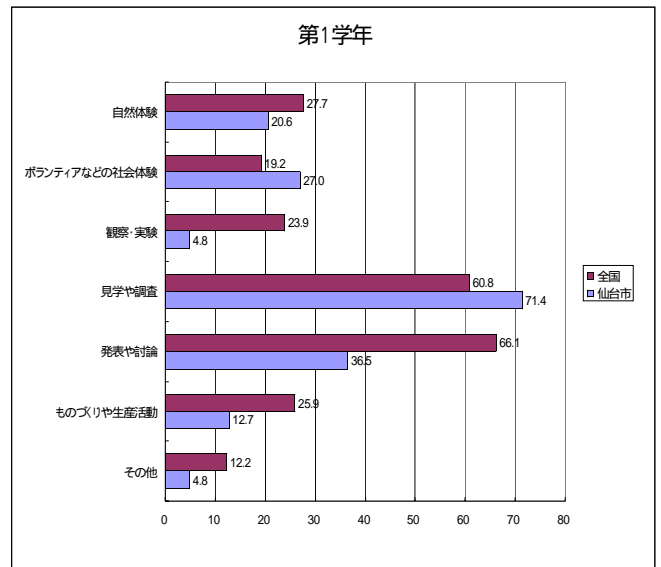
3年生では「自己の生き方」が63.5%と全国平均を大きく上回った。しかし「健康」「食に関すること」は全国平均が12.9%と15.4%になっているのに対して仙台市では健康が7.9%、食に関することが3.2%と低くなっている。



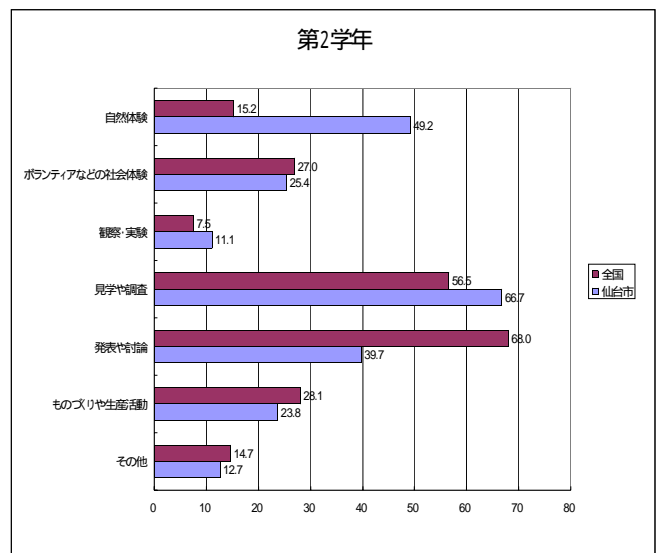
質問14 総合的な学習の時間の単元の学習活動

単元の学習活動を学年別に見ていくと1年生では見学や調査が71.4%、ボランティアなどの社会体験が27.0%と全国平均よりも高くなっている。その一方で観察や実験は4.8%と全国平均の23.9%からか

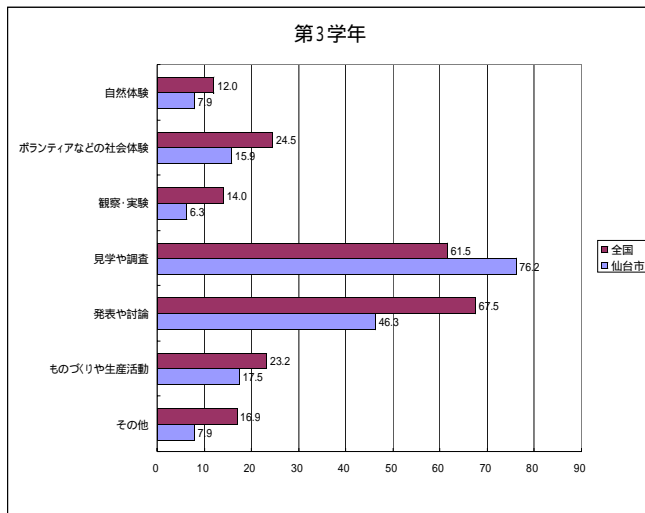
なり下回っている。又発表や討論も全国平均は66.1%、ものづくりや生産活動は25.9%となっているのに仙台市は36.5%と12.7%と低くなっている。



2年生では見学や調査は66.7%と全国平均を上回っているが、発表や討論は全国平均が68.0%となっているのに対して39.7%と低くなっている。又自然体験も全国平均が15.2%なのに仙台市は49.2%と高くなっている。



3年生でも見学や調査が76.2%と全国平均を大幅に上回っているのに対して、発表や討論が全国平均が67.5%に対して46.3%とかなり低くなっている。さらにボランティア活動や自然体験、観察実験などが全国平均よりも低くなっている。



研究のまとめ

今回の調査から仙台市立中学校の「総合的な学習の時間」の実施状況は全国との比較で次のような点が明らかになった。

時数が全国よりも設定されている。

単独で「総合的な学習の時間」を担当する分掌を置いている学校が全国と比較して極めて多い。

自ら課題を設定し、課題を追求する力や主体的に学んだり、考えたり、判断したりする力は「身に付いた」「ある程度身に付いた」と考えている校長が全国平均を上まわっている。

全体計画に資質・能力や態度を設定している割合が全国平均よりも低い。

自己の生き方を考えること、各教科等で身に付けた技能等を関連付けたり、生活に生かしたりすることが、「あまり身に付いていない」「ほとんど身に付いていない」と考えている校長が全国平均を上回っている。

「総合的な学習の時間」を実施しての課題は、校内の組織や運営と地域との連携の項目で「課題あり」「どちらかといえば課題あり」が全国平均よりも15ポイントほど高い結果であった。

「総合的な学習の時間」に関しては大枠では国立教育政策研究所が行ったアンケート結果とあまり変わりがないといえる。

しかし細部にわたって分析していくと質問3の「総合的な学習の時間」の充てる授業時数は全国平均よ

りも8～10時間多くなった。これは各学年とも小規模校ほど、130時間以上または130時間近い授業を実施している学校があり、小規模校では教員数が少ないので学校全体として取りまざるを得ない状況が「総合的な学習の時間」の実施時間増につながっているのではないと思われる。授業時数は小・中規模校で差が激しく、大規模校になると差が少なくなる傾向があった。

『「総合的な学習の時間」を実施しての課題』の設問に置いては仙台市内だけでなく全国でも「課題あり」「どちらかといえば課題あり」と回答しているが、仙台市は大きく全国平均を上まわっている。これは学校現場の抱えている問題の多様さや深刻さの表れだと考える。

「総合的な学習の時間」を充実させるためには、教材研究や教員の共通理解のための会議の時間確保が絶対に必要である。中学校現場では、生徒指導の問題や学力向上のための対策等でゆとりがどこにもないなかで、いかに時間を生み出す工夫をするかが学校運営を預かる校長に求められている課題ではないだろうか。

さらにより多様な「総合的な学習の時間」を実施しようとするれば外部人材活用や様々な施設の利用などが考えられる。仙台市では外部人材に対しての予算措置が行われているが、外部人材活用の項目に対しては「課題がある」が全国平均に比較して16%も高い結果が出てきた。これは手続きが煩雑なことからなのか、あるいは1回に支払われる経費が僅かであるためなのか、今後解明しなければならない点である。

このように課題が多い「総合的な学習の時間」ではあるが、学習指導要領の趣旨を踏まえ頑張っ取りくんでいる学校も数多く見られる。創作活動をメインに「総合的な学習の時間」を計画したり、地域の伝統芸能を継承するために「総合的な学習の時間」を小学校中学校で継続して実施したりしている学校もある。また地域に住んでいる達人の所を訪問することで、「総合的な学習の時間」を深めている学校、さらに小鉄人講座を実施し、地域住民を巻き込んで「総合的な学習の時間」を展開している例もある。様々な課題を抱えているにもかかわらず、教師が自らアイデアを出してよりよい授業をつくらうという努力の跡が見えている。校長として頑張っている教師のために精一杯の後押しをしたいものである。

「仙台市標準学力検査」について

仙台市校長会教育課題部会

1 はじめに

平成19年度はじめて導入された「仙台市標準学力検査」は、中学1年生では国語・数学・社会・理科の4教科を、中学2・3年生では英語を加えた5教科で実施された。

それまでは宮城県を含む4県合同学力検査に参加していた。今回からはこの4県合同の学力検査から独立し、仙台市独自の学力検査を実施した。ねらいは生徒の学力の現状や課題を全市的な規模で的確にかつ客観的に把握・分析し、学力向上に関する具体的な学習指導の工夫・改善を図ることであった。

そして、文科省も今年度から中学3年生を対象に国語と数学において学力検査を実施することになり、仙台市では、4月の一週間に2つの学力調査を実施する形になった。

そこで、「仙台市標準学力検査」が本来の目的を達成するために考えなければならない課題について考えてみたい。

2 「仙台市標準学力検査」について協議の中で話題になったこと

(1) 「仙台市標準学力検査」の分析資料について

3月に「速報・指導改善の手引き」として配布された分析資料からは、限られた問題の一部を取り上げていることが多く、総合的・相対的な学校の学力の傾向がわかるというものではないと思われる。また、表やグラフもすぐには理解できないものもあり、内容も「ある教科で成績が良好な生徒は、その他の教科においても良好である」等の表現があり、当初から予想のつく分析内容が多いのではないだろうか。

(2) 「仙台市標準学力検査」の問題について

実施された後、問題用紙は全部回収されている。学校保存用もない。それゆえ、どんな傾向の問題が出題され、どの問題に生徒の誤答が多いのかさえもつかめない状況である。それが全くわからない状況で期待正答率との比較だけを見ても指導の具体的手だてが見えてこない。

この点、文科省の学力調査は問題用紙も手元に残り正答率も公表されている。また、学習面や生活面での調査とあわせ利用価値も高いと思われる。問題内容も現在の教科書の傾向を踏まえてのものであるのか、また思考力を問うもの

も少ないように思われる。

(3) 「仙台市標準学力検査」の期待正答率について

期待正答率の信頼性がはっきりしない。

(4) 「仙台市標準学力検査」後のフォローアップシートについて

このシートの内容が「朝自習」的なものであり、どのように利用すべきなのか戸惑いの声も多い。必要な生徒に必要な部分を配布する程度かもしれないが印刷が膨大であった。単なる配布だけで終わっている、また利用しない学校もあったのではないだろうか。

3 協議の中での提案されたこと

(1) 「仙台市標準学力検査」の問題内容を吟味し、「思考力」との関わりが見られるものではないだろうか。場合によっては、仙台市内の教員による問題作成を視野にいれてはどうだろうか。

(2) 問題を公表し、学校の手元に残る方法を考えて欲しいこと。また、今回のよう基本問題を誤答した生徒に対してフォローアップシートを配布し活用するのもよいのと思うが、実際の誤答問題に対して具体的な解説等を加えることも本来のねらいを達成するためには必要ではないか。また、発展的な問題を与えれば理解度の高い生徒に対して発展シートを考えてはどうだろうか。さらに、期待正答率に対して各校正答率との比較をするより、各校平均点を出したほうが資料としての価値は高いと思われる。

(3) 平成21年度から学区制が廃止される。全県一学区になった際の進路指導の資料のひとつとして「仙台市標準学力検査」を考えるとどうか。もちろん現在のままのものではできないだろうが。(CRT NRT) そうしたことから、従来行われていた全校一斉のテスト実施を再考する時期にきているのではないだろうか。

(4) 「学力向上」という観点だけで歪んだ教育に走らぬように、これまでの「豊かな心の育成」や「課題解決学習」などの「生きる力」の育成についての論議の高まりは当然なことである。

仙台市のキャリア教育について

仙台市校長会教育課題部会

1 はじめに

平成19年度の教育課題部会は、従来の1テーマを決めアンケートを実施し実態を把握・考察する形を変え、私たちの身近にある課題のいくつかをあげ、一つ一つの課題についてレポーターを決め発表し、その発表をもとに協議し、尚かつ課題が解決されない場合には関係機関等への指導を願うという形で進めることにした。

今回は、文部科学省が「平成19年度から5日間の職場体験活動を全中学校で実施する」とし仙台市では、「自分づくり教育」という独自の形で進めようとしている。このテーマで協議した中で疑問が解決されない点がいくつかあったのでここで校長会での共通理解のため報告をする。

2 教育課題部会の協議の中で話題になったこと

(1) 文科省の「キャリア教育」と仙台市の「自分づくり教育」までの経緯について

(2) 「自分づくりの教育」は、重点課題を「かかわる力」としているが、最終的には「確かな学力」や「生きる力」の下位項目として「勤労観・職業観」を位置づけてとらえてよいのか。

(3) 「キャリア教育」における「連続5日間の体験活動」は悉皆なか。各学校の実態に応じた方法でいいのか。

また、1年生の職場訪問のような活動は「キャリア活動における体験活動」に含めていいか。

(4) 職場体験の受け入れ先の開発に関して、各種経済団体や商店会、行政区等全市的な範囲で情報収集、各学校への情報提供の予定はあるか。

(5) おみやげ等の市による新たな予算処置の予定はあるのか。また、職員の出張回数が多くなると思うが、県費配当旅費の増額を求める動きがあるのか。

3 教育指導課との協議で確認したこと

(1) 文部科学省は平成17年度からキャリアスタートウィークとして中学生に連続5日間の職場体験活動を実施し、全国1万人の目標を掲げ

た。

仙台市としては、単に職業体験をしての勤労観だけにとどまらない、確かな学力よりもっと大きな、将来社会で生きていけるだけの力の育成ととらえた。それが仙台市の「自分づくり教育」である。職業観・勤労観を育成しようとする文部科学省・経済産業省の提唱するキャリア教育・起業教育とをどちらも包含するものである。双方の実践がすでに展開されていたこと、また、名称に誤解を招く部分があるので仙台市は独自の理念に基づいて構築し「自分づくり教育」とした。「自分づくり教育」の中で児童生徒の勤労観・職業観、自立する力などを育てていくことになる。

(2) 自分づくり教育の目的は、「人とのかかわりを大切にしながら、児童生徒が望ましい勤労観・職業観、自立する力をはぐくみ、より充実した生き方で切り拓いていくとともに、確かな学力の向上を図ること」を目的とする。自分づくり教育の目的は生きる力の3つの要素にまたがる内容である。勤労観・職業観のみをとりあげれば、そう捉えられる。

(3) 文科省は「5日間を推奨」してきた。仙台市では、平成19年度、3～5日と幅を持たせ「準備のできたところから」としている。受け皿や市民の理解を確実にしながら根付かせていきたいと考えているからである。

全国的な検証によれば、確実に5日の方が教育効果が高いということは明らかになっている。仙台市でも効果を独自に検証しながら今後どのように展開するかを検討する。少なくとも3日以上社会体験活動(職場体験)は全校で展開していく予定である。1年生の職場訪問の内容を考えた時、「自分づくり教育」の1つとして位置づけられること。しかし、問題は、どのように位置づけるかである。何をどこまで育て、それを他の教科領域とどう関連させていくのか。それを上級学年にどうつなげていくのか。そういう意図が大切である。

- (4) 情報提供は次のように予定している。
行政で受け入れ可能な事業所の一覧
ハローワークから受け入れ可能な事業所の一覧
平成18年度受け入れ事業所の一覧(19年度末)
なお、PTA協議会等にも連携を呼びかけリスト作成予定。行政としては、市民理解促進のための依頼や広報を行うが、事業所開発に関してはあくまでも学校が主体である。
- (5) 予算要求は行っている。しかし、緊縮財政のため難しい面もある。
最低限保険代は担保したいと考えている。
職員の出張に関しては、課題として受け止めておく。検討したい。
- 4 今後考えられる話題
- (1) 職場開拓への不安
大体の学校は職場体験を10月の3～4週目に実施することが予想される。その時体験場所の奪い合いにならないだろうか。
- (2) 予算措置への不安
生徒の交通費、保険、職員の出張旅費、おみやげ代、まとめや資料等
- (3) 職場体験の日数への不安
仙台市内の中学校が3日間実施できるようになった後、本当に5日間にまでのばせるのか。授業時数確保との関係で大丈夫なのか。
- (4) 職場体験活動は3～5日間生徒を事業所におきっぱなしにしているようなもの。巡視等の配慮はしているが。
生徒の中には特別支援の必要な生徒たちも多い。それで本当によいのか。
事前に事業所に事情を話せば個人情報等との関連もでてくる。
- (5) 研究実践校からの情報提供
* 仙台市立蒲町中学校の自分づくり教育カリキュラムと授業実践
- (6) これだけ色々な不安要素があるとすれば、今後Q & Aのようなものがあったとしてもよいのではないか。